

芸閣

～図書館だより～

第6号
2017年11月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書斎という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

落ち葉の季節です

赤や黄に染まった葉が、はらはらと風に舞う季節です。散りもみじが、しっとり雨に濡れているのも、風情のあるものです。

静かにも枝はなれたる落葉かな 高浜虚子

冬が近づくと、木は葉と枝の間にしきりを作ります。水や養分が運ばれなくなるため、葉の中にあつた葉緑素が壊れ、隠れていた黄色の色素が表面に出て、葉が黄色くなります(黄葉)。葉の中にとりのこされた糖分に光が当たり、朝夕の温度が下がると、赤い色素に変わっていきます。これが紅葉のメカニズムです。昼と夜の温度差が大きいほど、色鮮やかに染まっていきます。

生徒図書充実委員会に参加しました

私たちは、生徒図書充実委員会で和歌山県庁を見学しました。県議会議場や、防災センター、議会図書室、県警通信指令室など普段なかなか入ることのできない場所を実際に見せていただくことができました。

県議会議場では県議会のしくみを教えていただき、なんと議長席にも座らせていただきました。議長席は会議場の少し高いところに設置されており実際に座って会議場を見渡してみると、なんだか恐れ多い気持ちになりました。議会図書館には和歌山に関する本や政治に関する本など専門的な本が多種そろえられていました。

このように和歌山県を支えている様々な機関を見学させていただくという貴重な経験ができたことをうれしく思います。

2A 堀内

(裏面に新しく入った本の紹介を載せています)

防災センターの見学→



10月26日に生徒図書充実委員会に行ってきました。今回は、県議会議場、防災センター、議会図書館と県警通信指令室の見学をしました。

議会図書館は思っていたよりも小さく、教室一つ分ほどの大きさで、置かれている本は県政に関わりのあるものだけでした。学校の図書館が「広く浅く」本を取り入れているのに対し、議会図書館は「狭く深く」取り入れているように思いました。県政に関連するもの、と言われると政治の難しい本ばかりかと身構えましたが、案外そうでもなく、中高生にも読めるような面白いデータブックなどもあり、気になる本を手にとると止まらないほどでした。

とても楽しく、良い経験になりました。

2B 橋本

新しく入った本の紹介



小説

『ラジオラジオラジオ!』

加藤千恵 著 河出書房新社

『散歩する侵略者』前川知大 著 KADOKAWA

『終電の神様』阿川大樹 著 実業之日本社

『キラキラ共和国』小川糸 著 幻冬舎

『いなくなれ、群青』河野裕 著 新潮社

『清須会議』三谷幸喜 著 幻冬舎

『徳川四天王』川村真二 著 PHP研究所

『百瀬、こっち向いて』中田永一 著 祥伝社

『民王』池井戸潤 著 文藝春秋

『ぼくらのハイジャック戦争』

宗田理 著 KADOKAWA

『キキに出会った人びと 魔女の宅急便特別編』

角野栄子 著 福音館書店

『ケーキ王子の名推理』七月隆文 著 新潮社

『百年法』山田宗樹 著 角川書店

『神様のコドモ』山田悠介 著 幻冬舎

宇宙工学

『一瞬で判断する力』

～私が宇宙飛行士として磨いた7つのスキル』

若田光一 著 日本実業出版社

スポーツ

『平尾誠二 人を奮い立たせるリーダーの力』

マガジンハウス

『パラスポーツルールブック』

陶山哲夫 監修 清水書院

音楽

『平原綾香と開くクラシックの扉』東京新聞

岩波新書

『中原中也』佐々木幹郎 著

『日本文化をよむ—5つのキーワード—』

藤田正勝 著

岩波ジュニア新書

『漱石先生の手紙が教えてくれたこと』

小山慶太 著

『マンボウのひみつ』澤井悦郎 著

『自分のことがわかる本』安部博枝 著

『世界に通じるマナーとコミュニケーション』

横手尚子・横山カズ 著

ちくまプリマー新書

『13歳からの「学問のすすめ」』

福沢諭吉 著 斎藤孝 解説

『「いじめ」や「差別」をなくすためにできること』

香山リカ 著

『歴史に「何を」まなぶのか』

半藤一利 著

『これを知らずに働けますか』

～学生と考える、労働問題ソボクな疑問30』

竹信三恵子 著

図書館講座のご案内

日時 12月21日(木)
(三者面談の日)
13:30
～15:30

内容 県立博物館
見学

【詳細は、後日、教室に
掲示してもらいます。】

